



日時 平成18年11月3日(金)13:30~16:00  
会場 ホテル近江屋

司会:宮古市産業振興部  
水産課長 金澤 榮基

1. 開 会 13:30~13:35
2. 主催者挨拶
3. 基調講演 13:35~14:30

「宮古湾におけるウナギの生活史と回遊」

東京大学海洋研究所助教授 新井 崇臣

4. 話題提供 14:30~15:10

「稚魚を育む藻場・干潟の大切さ」岩手県指導漁業士 山根 幸伸

「宮古湾の栽培漁業」独立行政法人水産総合研究センター 大河内裕之

～ 休 憩 ～ (15:10~15:20)

5. パネルディスカッション 15:20~16:00

コーディネーター 宮古地方振興局水産部長 寺島 久明

パネリスト 東京大学海洋研究所助教授 新井 崇臣

岩手県指導漁業士 山根 幸伸

独立行政法人水産総合研究センター 大河内裕之

(以上 敬称略)

## 基 調 講 演

### 「宮古湾におけるウナギの生活史と回遊」

講師：東京大学海洋研究所

助教授 新井 崇臣 氏

ウナギ（ニホンウナギ）の生態は未だに多くの謎に包まれている。ウナギの産卵場はマリアナ諸島西方海域とされているが、厳密な意味では、ウナギが実際にどこで産卵するのか分かっていない。マリアナ諸島周辺域で生まれたウナギは、海流に運ばれ、やがて黒潮に取り込まれて東アジアに沿って北上し、台湾、中国、日本、韓国の沿岸へやってくる。各国沿岸域にきたウナギは、淡水域で5-10年ほど過ごし、体調40-80cmに成長したウナギは秋の増水時に川を下って外洋の産卵場へと旅立つと考えられてきた。しかしながら、最近の研究によって降河回遊魚と考えられてきたウナギの中に、河川に遡上せず、一生海で過ごすウナギや淡水と海を行き来するウナギがいることが明らかになってきた。

宮古湾はウナギの分布域の北限に位置し、ウナギの生態の詳細を知る上でとても大事な場所といえる。しかしながらこれまでの研究では、分布北限に生息するウナギの生態を調べた例は皆無である。そこで今回、これまで宮古湾を中心に三陸沿岸域で調べた研究成果についてお話しする。

#### 講師略歴

所属：東京大学海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター沿岸生態分野助教授

平成12年1月 東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻  
博士課程終了

平成12年7月 東京大学海洋研究所 助手

平成18年8月 東京大学海洋研究所 助教授

HP：<http://www.icrc.ori.u-tokyo.ac.jp/tAraiHP/inquiry.html>

## 話題提供

### 1. 「稚魚を育む藻場・干潟の大切さ」

岩手県指導漁業士 山根 幸伸 氏

略歴：H14～ 岩手県指導漁業士  
 H15～H18 宮古漁協青壮年部長（現顧問）  
 H16～ 宮古・下閉伊づくりネットワーク水産部会長  
 H16～ 東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター 非常勤技術補佐員  
 H18～ 津軽石牡蠣養殖組合長  
 H16 第9回全国青年・女性漁業者交流大会増養殖部門で発表「ニシン増殖と沿岸環境」で農林水産大臣賞受賞

### 2. 「宮古湾の栽培漁業」

独立行政法人水産総合研究センター 大河内裕之 氏

略歴：S63.3 日本大学農獣医学部水産学科卒  
 S63.4 社団法人日本栽培漁業協会入社  
 H7.4 同協会宮古事業場（現：宮古栽培漁業センター）勤務  
 H18.10 水産総合研究センター業務企画部勤務  
 現職：研究開発コーディネーター

## パネルディスカッション

### 「宮古湾の藻場・干潟について語る」

コーディネーター 宮古地方振興局水産部長 寺島 久明 氏  
 パネリスト 東京大学海洋研究所助教授 新井 崇臣 氏  
 岩手県指導漁業士 山根 幸伸 氏  
 独立行政法人水産総合研究センター 大河内裕之 氏

宮古湾の藻場で育つ稚魚

ウミタナゴ



ウミダナゴ



キヌバリ



クロソイ



## 磯建網で採集した稚魚の種類

漁業の対象種	漁業の対象とならない種
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニシン</li> <li>・チカ</li> <li>・マコカレイ</li> <li>・クロソイ</li> <li>・ウミタナゴ</li> <li>・ヒラメ</li> <li>・ムラソイ</li> <li>・マダラ</li> <li>・アジ</li> <li>・クロダイ</li> <li>・マハゼ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イシカサテオ</li> <li>・クダヤガラ</li> <li>・ヨウジウオ</li> <li>・オクヨウジ</li> <li>・ヒメジ</li> <li>・ヨメヒメジ</li> <li>・ネスミゴチ</li> <li>・ギンボ</li> <li>・クサブリ</li> <li>・ガジ</li> <li>・ヤギウオ</li> </ul>

これらの稚魚は、すべて赤前地区の藻場と干潟で育っている